## 第60回

## 島尻地区中学校軟式里球1年生強化大会要項

- 1 主 催 島尻地区中学校体育連盟野球専門部
- 2 期 日 第73回強化大会後から予選リーグ令和6年2月10日(土) or 17日(土) 準決勝・決勝
- **3 会** 場 各中学校
- **4 申込締切** 令和 5 年 8 月 1 5 日 (火)
- 5 申 込 先 地区専門部
- 6 参 加 料 ¥3,000
- **7 参加資格** 島尻地区内の中学校の1年生で編成したチームとし、学校長が許可したチームとする。
- 8 競技規則 2023年日本軟式野球連盟の競技規則、及び本大会規定に準ずる。
- **9 大会方式** 予選リーグ (4リーグ) の上位 2 チームで決勝トーナメントを行う。
- 10 大会規定 ① チームの登録は、監督、コーチ2名と1年生の選手とし、人数については制限しない。
  - ② 競技形式はリーグ(予選)及びトーナメント方式とする。
  - ③ 試合は7回戦とする。但し、3回以降10点差、5回以降7点差以上の場合はコールド ゲームとする。
  - ④ すべての試合8回以降からはタイブレーク(無死1,2塁継続打順制の特別延長戦、勝負が 決するまででこれを繰り返す)を適用する。
  - ⑤ チームの選手、監督、コーチは同色、同形のユニホームを着用する。スパイクについては 選手は同色のスパイクとし、監督、コーチについては同色のシューズでもよい。 (シューズ、スパイクは色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする。)
  - ⑥ 一日に同一チームは3試合行わない。
  - ⑦ 捕手は全日軟式野球連盟公認マーク入りのマスク、スロートガード、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファウルカップを着用する。打者、走者、次打者、ベースコーチ、バットボーイとも両方のイヤーフラップのついた公認マーク入りのヘルメットを着用すること。
  - ⑧ リストバンド、バットリングの使用は禁止する。
  - ⑨ <u>背番号は $1 \sim 20$ を使用</u>し、原則としてポジション順とする。 ※1年生の部員数に応じて
  - ⑩ 日没、降雨についてのコールドゲームはない。 (サスペンデット)
  - ① 試合中のケガは、応急処置のみとする。(当該チームで対応)
  - ② 選手の引率・監督・部長は当該校の教職員とする。教員以外のコーチについては、学校長の認めたもので、地区、県中体連に登録されたものとする。
  - ⑬ 大会細則については、別に定める。
  - ④ 手袋については、高校野球対応型の白又は黒色とする。
  - (5) 投手の投球制限については、投手の肘・肩の障害防止を考慮し、大会中の1日の投球数を100球、 1週間の投球数を350球とする。試合中に制限投球数に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで 投球できる。 ※ただし決勝トーナメントからの適応とする。
- 11 試 **合 球** (公財)全日本軟式野球連盟公認M号球とする。
- 12 組合せ 令和5年8月15日(火)の監督会で抽選する。
  - 注:監督会不参加、又は30分以上遅刻した場合は、そのチームを失格とすることもある。 (※都合の悪い時は、必ず代理を立てる)
- 13 表 彰 優勝チームには優勝旗と賞状を、準優勝チームと3位チームには、賞状を授与する。

## 第60回

## 島尻地区中学校軟式野球1年生強化大会細則

- **1 試合時間** (1) 試合時間は1時間30分と計算する。
  - (2) 2 試合目以降は、前の試合が終了した時点から20分後を目安として試合開始をする。
- **2 オーダー交換**(1) オーダー交換 ① 1 試合目のチームは試合開始 4 5 分前に提出及び交換を行う。
  - ②2試合目以降のチームは前の試合の4イニング終了時に提出及び交換を行う。
  - (2) オーダー用紙 ①リーグ戦は、オーダー用紙は各チームで用意提出。
    - ②準決勝・決勝は本部で準備。(5部提出)
- 3ダッグアウト(1)抽選番号の若い方が一塁側とする。但し、連続して試合を行う場合は移動しない。
  - (2)試合中は、登録された監督・コーチ・選手以外のベンチ入りは禁止する。※準決勝から
  - (3) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止とする。
  - (4) ダッグアウト内でのメガホン使用は、監督もしくはコーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
- **4 応 援** (1) 中学生にふさわしい応援をする。(チアホーンは禁止)
  - (2) 応援団は試合終了後、スタンド(応援場所)の清掃を行う。
- 5 守備側と攻撃側のタイムの回数制限
  - (1)捕手または内野手が、1試合(7イニング)に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。
  - (2)延長戦(タイブレーク含む)となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
  - (3)攻撃側についても同様とする。
- 6 監督が投手の所へ行く回数の制限
  - (1)監督が1試合(7イニング)に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。
  - (2)延長戦(タイブレーク含む)となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
  - (3)監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使用または、捕手や野手に指示し直接投手の所へ行かせた場合)は自動的に交代しなければならない。
  - (4)自動的に交代した投手が他の守備についたときは、同一イニングに再び投手には戻れない。
- 7 試合のスピード化
  - (1) 打者・次打者・ベースコーチ・バットボーイ(^ルメット着用)の5名は攻撃前のミーティングには 参加せず、所定の場所へ移動すること。
  - (2) 投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球すること。
  - (3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
  - (4)次打者席では、投手が投球動作に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること
  - (5)サイン交換は迅速に行うこと。打者は、ボックス内でサインを見ること。
- **8 そ の 他** (1) アピールは当事者、監督に限る。
  - (2) 攻守交代は敏速に行い、投手はプレート上で捕手のサインを受け、時間の短縮に努める。
  - (3) 試合中のアップ (キャッチボール) については2組(4名以内) とする。また、素振り(グラウンド内) については禁止する。
  - (4) ロジンは各中学校で持参・準備する。
  - (5) リーグ戦から準々決勝までは、各チームボールを3球持参し会場校へ提供すること。
  - (6) 中学生にふさわしい身なりで出場すること。
  - (7) 審判は、各会場の監督(又は代理)が責任をもって行う。
    - (2・3年生の野球部員でも可。但し、服装はジャージ又はユニホームとする。帽子も着用すること。)